問 歴史と未来の交流館のコンセプトはいかに
答 水をテーマとし歴史を辿る展示体験学びの場

新和とうかい　武部　愼一　議員

議員　（仮称）歴史と未来の交流館施設の具体的イメージはあるのか。視察した参考施設等では、文化ボランティア団体が計画時から携わり、イベントを企画、展示物を制作、職員の10倍以上の体制で事業を支えている。本村では、既存の文化団体と協働し事業計画を考え、事業運営をどうすべきか、具体案を示すことが必要では。現段階では事業イメージが伝わっていない。これをどう克服し、具体化していくのか考えを伺う。事業を実施するなら、明確なビジョンを持って村全体として対応を検討すべきでは。

教育長　博物館法でいう自由度の高い類似施設を考え、水をテーマとして現在までの歴史を辿ってもらう展示、体験、学びの場にしたい。運営はアクティブシニア世代の活躍に期待。人がつながる施設として自然を残しながら取り組んでいきたい。

村長　文化財の保存や保管だけでは意味が無い。どう展示して伝えていくか、多くの村民が足を運び村外からも来ていただける施設としたい。

視察が行われた関連参考施設等の資料

問 災害対策の現状と今後の対応について
答 ご指摘には、積極的な対応を考えている

光風会　照沼　昇　議員

議員　今日は9月11日で、3・11の震災からちょうど4年半となる。災害復旧等の対応はだいぶ進んだが、以下の3点が不十分。①震災の停電時、救急車・消防車・重機にガソリン等を供給できたのは照沼商事だけだったが、そのノウハウを検証・普及しなければならないはず。②東海村民が、県内外の災害ボランティアを希望した際は何らかの補助を考えるべきではないか。③震災時の報道はIBSやNHKに勝るものはない。常日頃より当該部署との連携を図るべきではないか。

村民生活部長　①災害時における燃料確保は大変重要なので、石油商業組合との連携を図っていく。②災害ボランティアの派遣は、職員や村民の資質向上を図ることになるため、さまざまな被災地のボランティア希望者派遣に積極的な姿勢を示したいと考えている。③更に、災害時に報道機関との綿密な連携を図るために、日頃から顔の見える関係を構築していく。

被災現場